

平成28年度

美術館教育普及報告書



沖縄県立博物館・美術館

平成 28 年度 美術館教育普及報告書

目 次

- 04 はじめに
 - 05 本年度の取組み
 - 06 キュレータートーク・学芸員の声
 - 07 ギャラリートーク／ミュージアムツアー
 - 08 賞鑑ボランティア活動報告／ボランティアスタッフの声
 - 09 アートミュージアムキッズクラブ
 - 10 バス招聘事業「美術館へ行こう」
 - 11 生徒の声
 - 12 学芸員講座
 - 13 教員向け講座
 - 14 移動展 in 座間味村
 - 15 アウトリーチ
 - 16 文化・芸術活動支援事業
 - 17 展覧会関連催事
「パブロ・ピカソ ゲルニカ（タピスリ）沖縄特別展」
 - 18 展覧会関連催事
「文化勲章受章記念 志村ふくみ 母衣への回帰」
 - 19 展覧会関連催事 「宮良瑛子展ーいのちー」
 - 21 展覧会関連催事 「夢の美術館」
 - 22 展覧会関連催事 「真喜志勉展ーアンビバレントー」
 - 24 展覧会関連催事
「山本恵一展ーまなざしのシュルレアリスムー」
 - 25 魅力アップ事業
 - 26 実施統計
- さいごに

[はじめに]

平成19年11月に開館した沖縄県立博物館・美術館は今年で10年目に入り、入館者数は440万人に達しました。これも県民の皆様をはじめとする県内外の多くの方々の当館に対する期待の表れだと感じており、また、我々の責任の重さを示しています。

本報告書は、平成28年度に実施した企画・コレクション展関連催事、学校団対鑑賞プログラム、各種ワークショップ、ミュージアムツアー、移動展などの幅広い教育普及事業の活動の内容をまとめたものです。殊に、本年度新しく取り組んだアートミュージアムキッズクラブや文化・芸術活動支援事業では、美術館と外部団体・個人とこれまでにない新たな結びつきを生み出し、新規来館者の開拓と新たな価値を美術館から発信することができたと考えています。

本報告書が、皆様にとって県立博物館・美術館を活用する一助になれば幸いです。

沖縄県立博物館・美術館 館長 田名 真之

[本年度の取組み]

本年度の教育普及事業では、従来から取り組んでいる学校との連携を図る鑑賞プログラムである「学校団体対応プログラム」や当館がバスを手配し美術館に招待する「美術館へ行こう」を実施するとともに、学校に出向いて鑑賞の授業を行う「出前授業」を実施しました。また、鑑賞対応の取組みとしてP T Aとの連携に加え、今年度は公民館とのタイアップとして親子鑑賞ツアーも実施しました。

本年度は常設展で「美術館ニューコレクションシリーズ」として「宮良瑛子展」、「真喜志勉展」を開催しましたが、「宮良瑛子展」では、博物館との共同で慰霊の日特別プログラムとして絵本読み聞かせと沖縄戦の解説ツアーを、「真喜志勉展」では、リレーショナルギャラリートークを計7回実施しました。また、「美術館学芸員講座」「アートミュージアムキッズクラブ」「平成28年度文化・芸術活動支援事業」など新たな取組みを行うことで様々な個人・団体との連携を図り新規来館者の開拓につながったと思います。

キュレータートーク

キュレータートークとは、展覧会を企画した担当学芸員が、作家や作品、展示に関する意図、また開催するにあたり進めてきた調査・研究した内容を語る場でもある。

観覧者にとって、学芸員の話聞くことにより「美術作品」への関心を高め、より作品理解を深めることができる。また学芸員にとっては、観覧者に展示会がどう伝わったかを知る重要な機会となり、今後の展覧会への向けての情報収集となる。



学芸員の声

仲里 安広

本年度の企画ギャラリーやコレクションギャラリーでは、日本を代表する染織家の一人「志村ふくみ」展を初め、ダリやモネなどの世界の名画が集った「夢の美術館 めぐりあう名画たち」展、ニューコレクションとして新しく収蔵した作品を紹介する展覧会「宮良瑛子」展、「真喜志勉」展などを開催した。世界の名画から日本の美術、郷土の画家の展覧会まで、キュレータートークでは幅広い範囲で紹介できた。

アーティスト・ギャラリートーク

アーティストトーク、ギャラリートークでは、作家や作家とゆかりがある、あるいは研究している方から話しを聞く機会である。

作家自身から作品、制作に関することや思いを直接伺い、ゆかりがある方から作家の人柄や思想、歩んできた人生、客観的な事実や制作スタイル、モチーフの変遷などについて聞くことで、作品や作家に対して、新たな気付きや理解がより深まっていくことに繋がっていく。



ミュージアムツアー

普段見ることのできない美術館の裏側への案内と、コレクションギャラリーの鑑賞を取り入れたツアー。教育普及担当の学芸員が、美術館の役割や学芸員の仕事を解説する。特に修復室における実際の作業に関する説明は、参加者の多くの関心を引いている。夏休みの時期となる8月には、親子を対象としたツアーを実施。

- ① 実施：年5回 土曜日 10：30～12：00
- ② 内容：美術館の裏側を紹介し、コレクションギャラリーを案内する
- ③ 定員：12人



鑑賞ボランティア活動報告

美術館のボランティアスタッフは、3つのグループに分かれて活動している。その活動内容は、学校団体に向けた対話を通じた鑑賞を実施するガイドボランティア、ワークショップをサポートするボランティア、美術関連書籍を整理する資料整理ボランティアと多岐にわたっており、それぞれが特技を活かし美術館の活動を盛り上げている。

ボランティアスタッフの声

宮城アケミ（美術館ガイドボランティア）

5月に参加した、新規ボランティア研修の感動が今も忘れられない。「対話による鑑賞」「作品についての解説ではない」「子どもが作品に主体的に関わる」「自己肯定感をはぐくむ・・・」耳に入ってくる説明、キーワード、なんてすてきな視点でしょう。子どもの考え、感性を引き出すこと、考えを交流させることがボランティアの役割、活動なのだと思え、心から納得した。5回に渡る鑑賞ボランティア養成講座や補講プログラムは、緊張しながらも楽しかった。周りの仲間の表情も、学ぶ喜びに溢れていた。

9月、いよいよ子どもたちの前で鑑賞ボランティアとして活動。自由鑑賞を先に10分、その後2つの作品鑑賞。先輩ボランティアの温かい眼差しや助言と、子ども達の素直な感想、作品の力に支えられ、何とかやりきることができた。あれから7回参加させてもらった団体鑑賞ツアーボランティアの経験は大切な宝物になっている。美術館の関係者のみなさんに感謝の気持ちでいっぱいです。

金城章（美術館ガイドボランティア）

昨年からは、美術館学校団体鑑賞のボランティアガイドを担当させていただいています。私が担当したのは4校でした。当初は子供たちとどのように接すれば良いか、心配しておりましたが、いざ子供たちと会ってからは心配もどこへやら。

このプログラムの良さは、子供が中心であることが最も大事だということでしょう。大人目線で観ると、どうしても作品中心の解説型になってしまう恐れがあります。対話による交流で、子供たちの見方、感じ方が一人ひとり違うことに驚かされます。そして、絵に見えなくても想像で意見を述べる子供もいます。私も何度か感心したこともありました。

子供たちの考え方、見方をどのように引き出すか、ガイドの力量にも関わりますが、ガイドもそれぞれ個性があって、引き出し方、展開が違うので、とても勉強になります。

この事業が継続して開催されるよう願っております。



アートミュージアムキッズクラブ

学校での図工・美術の授業時間が減る中、もっと美術に触れてもらいたい、という思いから平成28年度の新しい事業として、小学生を対象に「アートミュージアムキッズクラブ」を立ち上げた。小学校3年生から5年生の生徒9名が集まり、美術を楽しむ力、より身近に感じる心を学ぶ為、1年をかけて全9回のプログラムに取組んだ。

回	期日	曜日	プログラム	講師
1	5月15日	日	説明会・バックヤードツアー	教育普及担当
2	5月28日	土	アートミュージアムキッズクラブTシャツ作り	真喜志康一氏
3	6月18日	土	「宮良瑛子展」読み聞かせ・鑑賞ツアー	銘苺小 PTCA
4	8月14日	日	〇〇さんにしかつけれないカブリモノ	吉田俊景氏
5	10月15日	土	「沖縄美術の流れ」鑑賞ツアー・アートカード体験	教育普及担当
6	11月19日	土	錫で豆皿をつくっちゃおう！！	上原俊展氏
7	12月11日	日	ガラス窓にクリスマスを描こう	教育普及担当
8	1月22日	日	紙すきで修了書づくり	沖縄県立芸術大学
9	1月29日	日	ジブンニガオエを描いてみよう！・修了式	教育普及担当

参加者の声

- ・最初はむずかしかったけど、やっていったら慣れてきて、色んな挑戦ができて良かったです。
- ・鑑賞のしかたも解って、うれしく楽しかった。
- ・色んなことができて楽しかった、良い経験になったと思う。

挑戦してみたいこと

- ・紅型や染物 / ハンコづくり / 身近な材料でおもちゃづくり / 自分のオリジナルキャラクターづくり

保護者の声

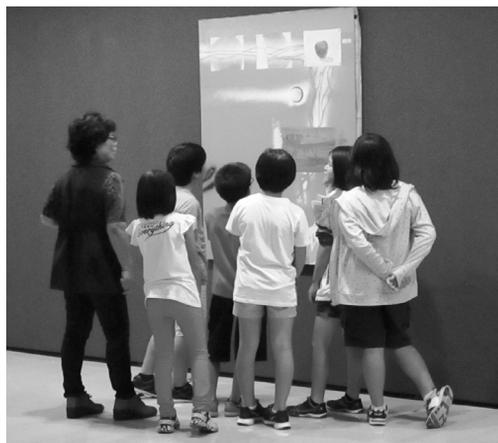
- ・作品を見て、子供達が自分の内に思う事を自分達で考え、表現（説明）することをぐっと引き出して下さったり、なかなか体験出来ない事を見て聞いて、触れて形にしてみたり、子供達がより身近にアートを感じ、大好きに思える素敵な時間でした。
- ・出来れば沖縄の子どもたちにもっと参加してもらえるように、学校へのお知らせを増やすなど工夫があれば良いかと思えます。
- ・前に立って話す力を付けようとして下さったり、色々な経験を出来るように考えて下さったり、子供に高いハードルを出すというより、子供がゆっくり楽しめるような指導にとっても感心しました。「出来た」「楽しめた」が子供の記憶からずっと離れないと思います。



バス招聘事業「美術館へ行こう」

平成24年度から、5カ年計画で国頭地区からスタートした美術館バス招聘事業「美術館へ行こう」。5年目の今年度は本島内の小中学校および特別支援学校に対して公募を行った。その結果、9月から12月にかけて8校（617人）の児童生徒が美術館に足を運び、作品の鑑賞を楽しんだ。各校とも来館前に事前の出前授業を行い、ティーチャーズキットやアートカードを活用した鑑賞の授業とマナーについて学んだ。当日、児童生徒はガイドボランティアと一緒にコレクションギャラリーを巡り、対話による鑑賞を通して多くの気付きと感動が生まれた。今後の美術館での鑑賞に大きな期待をもたらすきっかけとなりうると推察される。

回	期日	曜日	学校名	見学者
1	9月28日	水	豊見城市立上田小学校5年	104
2	10月5日	水	うるま市立中原小学校6年	120
3	10月14日	金	名護市立東江小学校6年	87
4	11月8日	火	宜野湾市立普天間中学校特別支援学級	21
5	11月22日	火	読谷村立古堅南小学校5年	99
6	11月25日	金	うるま市立平敷屋小学校3年	42
7	11月30日	水	糸満市立兼城小学校6年	107
8	12月9日	金	沖縄県立美咲特別支援学校はなさき分校（中・高）	84



美術館へいこう! 2016

～ふりがネリワークシ～

3年 1組 名前 _____

① 日時: (12) 月 (9) 日 (金) 曜日



② どこにいったでしょうか?

美術館

③ 見学をした感想を書きましょう。

どんな作品を見たかな? どう思ったかな?

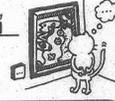
ふんみいたいな絵や女の人の絵も見ました。絵を書いた人はどんな気持ちで描いたのかなと思いました。アートカードもやりました。好きなカードを選びました。好きなカードを遊ぶ時、たくさんカードがあって楽しかったです。クイズもしました。クイズが簡単かったです。でもクイズが当たった時、とても嬉しかったです。

美術館へいこう! 2016

～ふりがネリワークシート～

1年 3組 名前 _____

① 日時: (12) 月 (9) 日 (金) 曜日



② どこにいったでしょうか?

沖縄県立美術館

③ 見学をした感想を書きましょう。

どんな作品を見たかな? どう思ったかな?

今日、ぼくは、沖縄県立美術館にいて見学をしました。美術館では、おもしろい絵や怖い絵やピカピカした絵や色々な絵がなくて、しかも絵の大半が沖縄の人が書いていた人です。すごいなと思いました。色々な絵を見て、よくわからない絵もあって、なにかあったらわかるかんじでした。

「美術館見学」を振り返って

6年 2組 名前 ()

ぼくたちは、9月30日に美術館見学に行きました。

中に入ると、わめと思わず声が出てしまいました。柱が芸術的で、くともかべが白かったです。ぼくたち2組は、最初アートカードを使って遊びました。それでゲームをしました。ルールは出題者がヒントを言う。その絵を当てるというゲームです。ぼくたち2グループは、2問正解し、3問目を出したのは、かりさんでした。それで結果はまちがいです。その時、人それぞれ自分のことを思うんでは、と思いました。次は、博物館に行きました。バタやシロの種類の多くありました。それで戦時中にあった出来事の写真なども書いてありました。最後に、鑑賞しました。ボランテアの方々がいろいろな質問をしてくれて、ぼくたちやアートを教えてくれて、そして、ぼくたちに絵がもらいました。ボランテアの人から、自分も絵が描きたい、とよくお話を聞きました。今日は、ぼくたちも、いろいろな体験をさせてもらいました。

「美術館見学」を振り返って

6年 3組 名前 ()

今日は色々な展示物や作品をみ

ました。博物館では、昔の家、食器、土器などが本館にありました。昔の人の生活が少し分かったような感じがしました。美術館では、色々な沖縄の芸術家の作品が置いてあって、おもしろい作品ばかりです。いろいろな作品がありました。一番印象に残ったのは、壁の上という作品です。見れば、モクシ人の顔にも見えました。色づかいも明らかだったので、おもしろいと思いました。アートカードでは、5つのヒントで絵を当てるのは、すごく難しかったです。たけど、全部当たったので、とてもうれしかったです。また、おもしろい作品を見つけるのは、おもしろい意見が、それについて、理由もたくさんあるのが、おもしろかったです。とても楽しかったです。私は美術館には、何度か行ったことがあったけど、今日はとてもおもしろい作品を見つけたので、よかったです。

美術館 学芸員講座

今年度から新たに取り組みられた美術館プログラム。当館学芸員が展覧会調査や作家調査の成果、あるいは、美術館業務で担当している内容等を広く県民のみな様に公開することを目的に開催し、今年度は計6回実施した。

回	月日	曜	展示会名	担当
1	4月23日	土	美術館に作品が展示されるまで—作品収集の視点から	島筒格
2	6月11日	土	修復コロシアム—保存修復の現場から—	梶原正史
3	9月17日	土	アジアコレクションの魅力	前田比呂也
4	10月22日	土	金城安太郎が描いた《今帰仁城盛衰記》	玉那覇英人
5	11月26日	土	教育普及の仕事—あなたの知らない教育普及プログラム	仲村保
6	1月28日	土	沖縄美術の変遷—明治から70年代まで— ～沖縄の美術家は何を捉えてきたか～	仲里安広



【学芸員の声】(仲村 保)

展覧会催事として行うキュレータートークと異なり参加者の陣容が幅広く、学芸員講座を開催したことは、受講者のみならず美術館にとっても意義のあることであった。受講者の中には、大学の講義との関連で学芸員講座に参加し、レポートを書くという学生や沖縄の歴史に興味のある方が『今帰仁城盛衰記』の表題にひかれ参加したという人など多様であった。美術館学芸員講座として学芸員の調査研究の成果や美術館業務の紹介などの報告は、大学や社会教育、生涯教育との連携で取り組むことにより、美術館が外に開かれ、より充実する可能性を秘めている。

教員向け講座

午前中は、美術館副館長、前田比呂也による「21世紀型学力と言語活動について」の講話を行い、その後常設ギャラリーで「宮良瑛子展」「沖縄美術の流れ」の展示作品を使って、授業を想定した対話をとおした鑑賞の体験を小グループに分かれ教育普及担当とともにいった。

午後は、学校現場で図工・美術の授業実践に取り組んでいる3名の小学校の先生を講師に招き、日頃から取り組んでいる鑑賞の授業実践を紹介してもらった。また、当館の「アートカード」を活用した鑑賞のためのプログラムを体験した。



【講師】 前田比呂也、安里愛氏、峰村和美氏（名護市立東江小学校）、
岸本綾乃氏（名護市立名護小学校）

【日時】 8月12日（金）9：30—16：30

【会場】 美術館講座室

【参加者】 小中高等学校・特別支援学校教員（36名）

【内容】 ①「21世紀型学力と言語活動について」（前田比呂也美術館副館長）

②対話をとおした鑑賞体験（教育普及担当）

③授業で取り組んだ鑑賞の実践発表（安里愛氏、峰村和美氏、岸本綾乃氏）

【参加者の声】

- ・なぜ美術を学ぶのか？の問いに、対話型の鑑賞は大きな意味を持っていると思います。もっと中学校の先生に参加してほしいと思ったので、勇気を出してこの講座を宣伝していこうと思います。
- ・初めてのメンバーでの活動でしたが、アートカードを活用することで楽しく進めることができました。美術だけでなく、学級活動でもいろいろ活用できると思いました。ぜひ、いろんな形で実践したい。
- ・鑑賞の授業をすとなると、私自身力が入ってあまりうまくできなかったことがありませんでした。今日の活動ならもっと楽しみながら子ども達の意見を引き出すことができそうだと感じました。
- ・小学校の低学年だと「図工」＝「お楽しみ」というイメージがあり、楽しむことができればいいかなという考えでした。が、楽しむだけでなく対話による鑑賞は言語活動にもつながると知り、今後の授業にいかしていきたいと思います。

	非常に満足	満足	普通	不満
講話・実践発表	66%	34%		
アートカード体験	68%	32%		

[移動展 in 座間味村]



移動展とは、日常的に足を運ぶことが難しい離島の方々へ博物館資料や美術作品を公開する機会を提供する趣旨から、毎年開催している。今回は、座間味村（座間味島、阿嘉島、慶留間島）で3日間に渡り開催した。今回の移動展では、2つのワークショップと出前授業の実施。開催期間中の映画上映会を実施した。主会場となった座間味離島振興総合センターには、阿嘉島と座間味島で行った染色のワークショップの作品を展示し好評を博した。

来場者数

■座間味離島振興総合センター：508名

○16日（金）/164人（70歳以上9人、一般72人、高大0人、小中67人、未就学児16人）

○17日（土）/157人（70歳以上3人、一般73人、高大0人、小中60人、未就学児21人）

○18日（日）/187人（70歳以上4人、一般72人、高大0人、小中81人、未就学児30人）



アウトリサーチ

今年度、美術館では座間味島、阿嘉島で2つのアウトリーチを実施した。

「けらまいろ染料で描く海と空」では、アーティストの児玉美咲氏が講師を務め、島の人々が自分の住んでいる場所を思い返し、浮かんでくるイメージを色に置換え布を染め上げた。

「身近なモノを錫にしてみよう」では、錫細工職人の上原俊展氏が講師を務め、島に落ちている木の実や貝殻を型取りし、錫にする事で一生の宝物を作り上げた。

どちらのワークショップも、見過ごしがちな地元の良さや日常の大切さを、改めて考えるきっかけになってほしいと企画した。

講師の声

ワークショップ / 講師 児玉美咲氏

島で暮らす人たちがイメージする慶良間の色は何色なのか。「ケラマブルー」は一致しているのか、ワークショップを通して見えてきたものがあります。

「けらまいろって何色だと思う。」と参加者へ質問しました。「あお」や「みどり」「茶色」中には「くろ」と答える子もあり、十人十色の回答でした。その回答から慶良間周辺の島々は山色が深く濃いみどり色や、潮風にさらされた鉄の錆や岩石の茶色を連想しました。予想外の「くろ」と答えた子に何故なのか質問したところ、「夜は真っ暗だから」とのことです。子どもたちの目を通して、島の姿が見えたようでした。このことから子どもたちは周囲にある色に影響を受け無意識に捉えているように思えます。

布の染め方も座間味、阿嘉によって異なります。阿嘉島では手や指を使って染める子もあり、感覚的に染めている印象がありました。座間味では文字や絵柄を描くことが多く、描きたいもの、染めたいイメージを各々持っていて染めている様に見えました。

座間味と阿嘉島は隣同士の島ですが、それぞれ取り組み方やイメージの持ち方が異なるのだと思いました。

ワークショップに向け慶良間諸島についてリサーチを行いました。宮古、八重山に比べ資料や情報が少なく文化面については殆ど分かりませんが、慶良間は未だ外的なイメージに染められていない原石のような島だと思います。

国立公園に指定され、島へ訪れる観光客数も増えているようです。今後、多くの方が島を訪れることで本来の島らしさが稀釈されないことを願います。また、美術を通して島の魅力について考えるきっかけを作れるのではないかと思います。

講師の声

ワークショップ / 講師 上原俊展氏

300年以上も続いていた琉球錫文化とその職人の思いを伝えていけるようなワークショップができればと美術館担当の方に相談させていただいたのが企画のきっかけでした。沖縄の金属工芸分野の研究はなかなか進んでおらず、その存在すら一般的に知られていないのが現状です。これから広めていくためにも、まず「錫」という素材を知ってもらおうと「コンロで簡単に溶かせる」という面白い特徴から企画を提案しました。好きなモノを持ち寄り、砂で型取り、そこに溶かした金属を自らが流し込む。一生懸命に時間をかけて型取りしても、流し込みで手元が狂えば失敗してしまうリスクもあり、その作業は呼吸が止まるほど緊張している様子でした。結果は皆大成功で緊張からの緩和も手伝ってか、その喜びも大きなもので、あたりも笑顔で包まれ、指導側の私もその感動でいっぱいになりました。ありがとうございました。

文化・芸術活動支援事業

今年度新たな取組として、「平成28年度文化・芸術活動支援事業」を実施した。本事業は、県内に活動の拠点を置く文化・芸術活動を行う個人・団体を対象に、当館の県民・子どもアトリエをはじめとした施設をワークショップや公演などで活用してもらうことを目的としたものである。28年度は、19の個人・団体により37のプログラムを実施してもらい、新規来館者の開拓や当館と実施団体との繋がりを持つ機会となった。

平成28年度文化・芸術活動支援事業一覧

回	月日	曜日	プログラム名	実施者・団体	内容
1	4月12～17日	火～日	「カジマヤースーパーおばあちゃんの絵画展」	富岡ヨシ	絵画展
2	4月23日	日	「アートは豊かな生活・社会を築く」 県芸同窓会チアーンリアクション①	黄金忠博	講話とデッサンワークショップ
3	5月14日	土	街なかアートサロン「ゴッホの手紙」	琉球フィルハーモニック 艶色おとな団	「ゴッホの手紙」の朗読と、ゴッホと同時代の演奏会、 作品解説
4	5月28日	土	「与太郎の彫刻話」 県芸同窓会チアーンリアクション②	吉田俊彰・奥山泉	作品制作についてのトーク
5	6月11日	土	「動物のイラストを描こう」 沖縄美術家連盟①	島津喜芳	イラストのワークショップ
6	6月19日	日	「ゴッホの手紙から生涯と作品を読み解く」	琉球フィルハーモニック 艶色おとな団	「ゴッホの手紙」の朗読と、ゴッホと同時代の演奏会、 作品解説
7	7月1日・3日	金・土	山田五郎講演会	山田五郎	「巨匠たちの奇跡展」と関連させた講演会「山田五郎 のアートワーク」
8	7月2日	土	「How are Yuku? 一人座談会」 県芸同窓会チアーンリアクション③	照屋勇憲	作品制作についてのトーク
9	7月9日	土	「アルミ缶でアートー私の作品作りー」 沖縄美術家連盟②	豊良朝彦	作品解説とワークショップ
10	7月15日	金	オペラ「泥棒とオールドミス」	沖縄オペラアカデミー	オペラの上演
11	7月16日 17日	土 日	「安岡中学校区青年部旗頭・エイサー演奏」	安岡中学校区青年部	講座室での活動の取組報告とプラザでの演技
12	8月2日・3日	火・水	木村泰司講演会	木村泰司	「巨匠たちの奇跡展」と関連させた講演会「ヴァラフ・ リチャルツ美術館コレクションから見る19世紀フラン ス近代絵画の奇跡」
13	8月6日	土	「アートキャンプ2016」	アートキャンプ2001 実行委員会	作品づくりワークショップ
14	8月9～12日	火～金	オペラ「LA BOHEME」ワークショップ	沖縄オペラアカデミー	希望者を募集してのオペラのワークショップ
15	8月13日・14日	土・日	夏休みこどもフェスタ	美術館支援組織happ	こども向けワークショップ
16	8月13日	土	オペラ「LA BOHEME」講演	沖縄オペラアカデミー	ワークショップの成果発表
17	8月10～12日 18日・19日	水～金 木～金	創作ダンス「MY NAME」ワークショップ	YUKIMUハニエ・コンチンペラ・スタジオ	児童を対象とした身体表現ワークショップ
18	8月20日	土	創作ダンス「MY NAME」発表	YUKIMUハニエ・コンチンペラ・スタジオ	ワークショップの成果発表
19	8月21日	日	「島草履でアート」	ISLANDBOX	自分のデザインを形に込めようワークショップ
20	8月27日	土	「琉球芸能の楽しみ方」 県芸同窓会チアーンリアクション④	名幸一幸・金城裕幸	トークと三線のワークショップ
21	9月10日	土	「エナジーへの賛歌 大城謙の世界」 沖縄美術家連盟③	大城謙	作品解説とワークショップ
22	9月25日	日	JAGDAデザイン展関連岸本一夫トーク	岸本一夫	作品制作とデザインについてのトーク
23	10月8日	土	「生き物たちから見る風景 ～大浜英治ドローイングの展開」 沖縄美術家連盟⑤	大浜英治	作品解説とワークショップ
24	11月17日	日	現代アート・レクチャー「フォーニャーリ・エンゲイ ジッドアートの新なる潮流 現実社会と深く 関わるアート活動を学び解く」	清水裕子	現代社会の問題とアートとの関わり講座
25	11月22～23日	土・日	「スマホで綺麗な写真を撮る方法」 「ふっ飛んだジュエリー作ってませんか？」 「コルク指人形をつかって歌って語っちゃおう」	琉美学園写真デザイン科・ ジュエリー・デザイン科	琉美学園講師によるワークショップ
26	11月27日	日	「県芸同窓会チアーンリアクション⑤」 「(NOW)から(フューチャー)への展開」	石垣克子	親子参加の指人形づくりワークショップ
27	12月10日	土	川平恵造の世界」 沖縄美術家連盟⑥	川平恵造	当館前田副館長とのトークセッション
28	12月20～23日	火～日	沖縄・ベトナム「子どもたちがみた戦争と平和」絵画展	沖縄・ベトナム絵画展実行委員会	ベトナム戦争証跡博物館・沖縄平和記念資料館から 借用した絵画展示
29	12月24日	土	「スマホでWebサイトをつくってみよう」 県芸同窓会チアーンリアクション⑥	真喜志康一	Webサイト作成のワークショップ
30	1月9日	月	ミュージカル「WHERE IS YOUR LOVE」	ハワイオマンス集団OHANA	琉大生によるミュージカル
31	1月28日	土	「音楽かかれんぼ2017」 県芸同窓会チアーンリアクション⑦	新崎誠実	演奏活動についてのトーク
32	1月29日	日	「彩の音色～ビオラとピアノによるミニコンサート」	大蔵祐歌・新垣伊津子	県企画展「夢の美術館」に合わせた演目
33	2月4日	土	子ども組み語「鏡写子」	琉球新報心のいふフェスタ実行委員会	組語、三線、書道、茶道等の総合発表
34	3月11日	土	「アーティストトーク」 沖縄美術家連盟⑦	豊良朝彦、大城謙、 大浜英治、川平恵造、 島津喜芳	それぞれの作家活動の振り返りとこれからの美術について
35	3月20～28日	月～日	県芸 15期生展覧会	県芸15期生	展覧会
36	3月25日	土	「ファンパレードをつくろう」	平良和宏	真喜志康一と関連させたワークショップ
37	3月25日	土	「未定」 県芸同窓会チアーンリアクション⑧	未定	未定



琉球朝日放送開局20周年記念

「パブロ・ピカソ ゲルニカ（タピスリ）沖縄特別展」 —戦後70年、今ゲルニカで考える—

【会期：2016年3月19日（土）～2016年4月17日（日）】

本展覧会は、20世紀を象徴する作品とされるパブロ・ピカソの《ゲルニカ》のタピスリを沖縄で展示した。その大作の迫力を、肌で感じ取る機会を提供した。また、作品の背景から歴史を学び、平和を考え、ピカソが作品に込めた思い、またその芸術性を感じてもらった。世界に3つしかない貴重な作品にふれる機会を、県民に提供する場となった。

本展覧会関連催事として、フリージャーナリストの土江真樹子氏と当美術館副館長前田比呂也によるクロストークを行った。

□開催記念講演『ゲルニカと沖縄』

【日 時】平成28年4月9日（土）14:00～15:00

【講 師】土江真樹子氏（フリージャーナリスト）、前田比呂也（当美術館副館長）

【会 場】美術館講座室 【参加者】30人



「文化勲章受章記念 志村ふくみ 母衣への回帰」

【会期：2016年4月12日（火）～5月29日（日）】

1924年に滋賀県近江八幡市に生まれた志村ふくみは、母・小野豊の影響で織物を始め、現代日本の染織分野に独自の世界を展開している。1990年に紬織の重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定され、2015年には文化勲章を受章した。

この展覧会では、代表作を中心に、初期の作品から最新作までを一堂に展示することで、60年に及ぶ創作のあゆみを紹介するとともに、志村ふくみの魅力とその芸術の核心に迫った。

関連催事として、講師を招いての講演会やギャラリートーク、担当学芸によるキュレータートーク、こども向け鑑賞ツアー、記録映画上映会などを実施した。

□志村ふくみ展関連 講演会

【日 時】平成28年4月12日（火）14:00～15:00

【講 師】松原龍一氏（国立京都近代美術館）

【会 場】講堂 【参加者】101名

□キュレータートーク

【日 時】平成28年5月14日（土）14:00～15:30

【講 師】大城さゆり（当館展覧会担当）

【会 場】美術館企画展示室 【参加者】30名

□ギャラリートーク①

【日 時】平成28年5月8日（日）15:00～

【講 師】松原龍一氏（国立京都近代美術館）

【会 場】美術館企画展示室 【参加者】60名

□ギャラリートーク②

【日 時】平成28年5月29日（日）15:00～

【講 師】外山もえこ氏（アルスシムラ）

【会 場】美術館企画展示室 【参加者】45名

□記録映画上映会《工芸技術記録映画－志村ふくみの技》

【日 時】平成28年5月8日（日）14:00～

【解 説】松原龍一氏（国立京都近代美術館）

【会 場】講堂 【参加者】151名

□こども向け鑑賞ツアー

【日 時】平成28年5月14日（土）10:30～11:30

【講 師】仲村保（当館教育普及担当）

【会 場】美術館企画展示室 【参加者】5名



「宮良瑛子展—いのち—」

【会期：平成28年4月26日（火）～平成29年10月16日（日）】

この展覧会は、新収蔵作品を紹介する〈ニューコレクション・シリーズ〉の第1回展として、沖縄を創作活動の拠点とする女性アーティスト、宮良瑛子（1935～）の絵画と彫刻の作品を取り上げた。「アートは常に社会を映し出す鏡である」というテーマで、画家として宮良が、どのように社会と向き合い、表現してきたのかを振り返る内容とした。さらに女であることや、県外出身者であるという孤独感をバネにして、沖縄のアートシーンで沖縄女流美術家協会や沖縄平和美術展の立ち上げに奔走した記録資料などもあわせて展示した。さらに特別展示として、戦後沖縄女性アーティストのパイオニアである久場とよ、山元文子両氏の作品と、宮良と同じく社会の矛盾を批判する画家、儀間比呂志の作品もあわせて紹介した。

関連催事として、講師を招いてのシンポジウムや宮良瑛子氏によるギャラリートーク、キュレータートーク、ギャラリートーク、計3回実施した絵本の読み聞かせなど様々な催事を行った。

□「宮良瑛子展関連シンポジウム」

【日 時】平成28年4月30日（土）14:00～16:00

【講 師】宮良瑛子氏（画家）、岡村幸宣氏（原爆の図丸木美術館学芸員）

上原誠勇氏（画廊沖縄主宰）、山川さやか氏（画家）

コーディネーター豊見山愛（当館担当学芸員）

【会 場】講堂 【参加者】79人

□キュレータートーク

【日 時】平成28年5月28日（土）14:00～15:00

【講 師】豊見山愛（当館担当学芸員）

【会 場】美術館講座室、コレクションギャラリー1・2、ホワイエ 【参加者】22人

□ギャラリートーク①

【日 時】平成28年4月26日（火）10:30～

【講 師】宮良瑛子氏（画家）

【会 場】コレクションギャラリー1・2、ホワイエ 【参加者】20人

□ギャラリートーク②

【日 時】平成28年8月7日（日）14:00～17:00

【講 師】黒田昌弘氏（画像聴覚化研究所代表）

【会 場】美術館講座室【参加者】23人

□ギャラリートーク③

【日 時】平成28年10月2日（日）14:00～15:30

【講 師】宮良瑛子氏（画家）

【会 場】コレクションギャラリー1・2、ホワイエ 【参加者】21人

□読み聞かせ①

【日 時】平成 28 年 6 月 18 日（土）10:00～12:00

【講 師】佐渡山安博、金児由紀子

【会 場】コレクションギャラリー 2 【参加者】29 人

□読み聞かせ② ※慰霊の日特別プログラム（博物館との共同開催）

【日 時】平成 28 年 6 月 23 日（木）14:00～16:30

【講 師】崎山律子氏（フリーアナウンサー）石垣忍（当博物館歴史担当）

【会 場】コレクションギャラリー 2

博物館常設展 【参加者】29 人

□読み聞かせ③

【日 時】平成 28 年 8 月 13 日（土）14:00～15:30

【講 師】山川喜美子氏（菜の花文庫主宰）

【会 場】コレクションギャラリー 2 【参加者】29 人



「夢の美術館 めぐりあう名画たち」

【会期：平成28年12月20日（火）～29年2月5日（日）】

優れた名品を有する福岡市美術館と北九州市美術館の改修工事にともない、夢のような名品が初来沖した。サルバドール・ダリやミロ、シャガール、ドガ、ルノアール、ポール・デルボー、アンディー・ウォーホルをはじめ、国内では、黒田清輝、藤島武二、岸田劉生、青木繁、東山魁夷の巨匠たち。そして現在活躍中の草間彌生、やなぎみわなど、日本を代表する現代美術の作品も併せて展示した。名品のほとんどが県内初公開となった。

関連催事として、講師を招いての講演会・シンポジウム、ギャラリートーク、担当学芸員によるキュレータートーク、絵画ワークショップなどを行った。

□夢の美術館展関連 講演会・シンポジウム

第1部《講演会》「福岡市美術館 収集活動の変遷」

【日 時】平成29年1月15日（日）14:00～15:00

【講 師】山口洋三氏（福岡市美術館）

【会 場】講堂 【参加者】40人

第2部《シンポジウム》「美術館と作品収集」

【日 時】平成29年1月15日（日）15:00～17:00

【講 師】山口洋三氏（福岡市美術館）、重松知美氏（北九州市立美術館）、前田比呂也（当美術館副館長）、コーディネーター仲里安広（当館担当学芸員）

【会 場】講堂 【参加者】40人

□キュレータートーク

【日 時】平成29年1月21日（土）14:00～15:30

【講 師】仲里安広（当館担当学芸員）

【会 場】美術館講座室・企画展示室 【参加者】49人

□ギャラリートーク①

【日 時】平成29年1月15日（日）10:30～12:00

【テーマ】「北九州美術館コレクション形成の軌跡」

【講 師】重松知美氏（北九州市立美術館学芸）

【会 場】美術館講座室・企画展示室 【参加者】32人

□ギャラリートーク②

【日 時】平成29年1月29日（日）14:00～15:30

【テーマ】「シュルレアリスムの画家たち」

【講 師】与久田健一氏（画家）

【会 場】美術館講座室・企画展示室 【参加者】32人

□美術館講座

【日 時】平成29年1月8日（日）14:00～15:30

【テーマ】「印象派から現代までの絵画の軌跡」

【講 師】土屋誠一氏（沖縄県立芸術大学准教授）

【会 場】美術館講座室 【参加者】52人

□ワークショップ《色の中で遊ぶ》

【日 時】平成29年1月14日（土）14:00～16:00

【講 師】上原成美氏（画家）

【会 場】美術館県民・こどもアトリエ 【参加者】12人



「真喜志勉展－アンビバレント－」

【会期：平成28年11月1日（火）～平成29年4月16日（日）】

本展覧会は、当館が昨年度寄贈を受けた美術品をニュー・コレクションとして、広く沖縄県民に紹介するシリーズの第2弾として開催した。

真喜志勉は、戦後の沖縄前衛美術のパイオニアとして活躍したアーティストの一人であり、戦後沖縄美術の中で独自の作風をつくってきた真喜志の大胆かつ繊細、前衛でありながら、現実性・時事性を併せ持つアンビバレント（※1）な作品を紹介する展覧会である。

※1 一つの物事に対し、相反する価値が共に存し、葛藤する状態。二律背反。

関連催事として、開会式で真喜志勉と親交のあったジャズピアニストの山下洋輔氏によるピアノ演奏や講師を招いてのシンポジウム、また、計7回のリレーショナル・ギャラリートーク、ワークショップなど様々な催事を行った。

□「真喜志勉展関連シンポジウム」

【日 時】平成28年11月5日（土）14:00～16:00

【講 師】土屋誠一氏（沖縄県立芸術大学准教授）、能勢裕子氏（彫刻家）

仲里効氏（映像批評家）、前田比呂也（当美術館副館長）

コーディネーター島筒格（当館担当学芸員）

【会 場】講堂 【参加者】72人

□「真喜志勉展 開会式ジャズ演奏」

【日 時】平成28年11月1日（火）10:00～

【講 師】山下洋輔氏（ジャズピアニスト）

【会 場】美術館コレクションギャラリー、ホワイエ 【参加者】120人

□キュレータートーク

【日 時】平成28年12月3日（土）14:00～15:30

【講 師】島筒格（当館担当学芸員）

【会 場】美術館コレクションギャラリー1・2、ホワイエ 【参加者】16人

□ギャラリートーク①

【日 時】平成28年11月1日（火）10:30～11:30

【講 師】能勢孝二郎氏（彫刻家）、前田比呂也（当美術館副館長）

【会 場】美術館コレクションギャラリー1・2、ホワイエ 【参加者】70人

□ギャラリートーク②「TOM MAXと仲宗根政善」

【日 時】平成28年11月20日（日）14:00～15:30

【講 師】長元朝浩氏（沖縄タイムス論説員）、仲里効氏（映像批評家）

【会 場】美術館コレクションギャラリー1 【参加者】58人



□ギャラリートーク③「TOM MAXとアメリカ」

【日 時】平成 28 年 12 月 18 日（日）14:00～15:30

【講 師】宮城明氏（画家）、翁長直樹氏（美術批評家）

【会 場】美術館コレクションギャラリーホワイエ 【参加者】30 人

□ギャラリートーク④「TOM MAXとぺんとはうす」

【日 時】平成 29 年 1 月 22 日（日）14:00～15:30

【講 師】古謝肇氏、上原則雄氏、井口春治氏、平良和宏氏（ぺんとはうす修了者）、

仲里効氏（映像批評家）

【会 場】美術館コレクションギャラリーホワイエ 【参加者】33 人

□ギャラリートーク⑤「TOM MAXと写真家たち」

【日 時】平成 29 年 2 月 19 日（日）14:00～15:30

【講 師】大城弘明氏（写真家）、仲里効氏（映像批評家）

【会 場】美術館コレクションギャラリー1 【参加者】25 人

□ギャラリートーク⑥「TOM MAXと詩人たち」

【日 時】平成 29 年 3 月 12 日（日）14:00～15:30

【講 師】中里友豪氏（詩人）、仲里効氏（映像批評家）

【会 場】美術館コレクションギャラリー1 【参加者】36 人

□ギャラリートーク⑦「TOM MAXとOKINAWA」

【日 時】平成 29 年 3 月 19 日（日）14:00～15:30

【講 師】仲里効氏（映像批評家）、翁長直樹氏（美術批評家）、

前田比呂也（当美術館副館長）

【会 場】美術館コレクションギャラリー1 【参加者】36 人

□ワークショップ①《墨絵で描く秋》

【日 時】平成 28 年 11 月 5 日（土）10:00～12:00

【講 師】仲本京子氏（画家）

【会 場】県民・こどもアトリエ 【参加者】11 人

□ワークショップ②《Dog Tag を作ろう》

【日 時】平成 29 年 2 月 11 日（土）10:00～12:00

【講 師】喜舎場智子氏、平澤尚子氏（cicafu metal works）

【会 場】県民・こどもアトリエ 【参加者】9 人



「山元恵一展—まなざしのシュルレアリスム—」

【会期：平成29年3月3日（金）～平成29年4月23日（日）】

戦後沖縄美術の実相を紐解くための企画展「沖縄の美術シリーズ」第6回目として、沖縄でシュルレアリスムの画家と親しまれる山元恵一と、その関連でご紹介する画家の作品158点を展示した。山元恵一は1913年（大正2年）、那覇区西町に警察官の父の長男として生まれた。沖縄県立第二中学校に入学後、図画教師である比嘉景常の下で「樹緑会」に参加、卒業後は親の反対を押し切って東京へ行き、東京美術学校へ入学する。そこで、シュルレアリスムの美術学生らのグループ〈貌（ぼう）〉に参加した。本展覧会では、福沢一郎をはじめとする池袋モンパルナスの画家たちや、〈貌〉同人の杉全直、さらに山元と共に東京へ進学しながら、志半ばで学業を断念せざるを得なかった西村菊雄など、山元と縁のある画家の作品も併せて紹介して、その時代と美術表現を俯瞰した。

関連催事として、講師を招いての講演会・シンポジウム、山元恵一の孫にあたる山元ほるんピアノ演奏会やまーちゃん（小波津正光）によるギャラリートーク、キュレータートークなど様々な催事を行った。

□山元恵一展関連 講演会・シンポジウム

第1部《講演会》「山元恵一の東京時代」

【日 時】平成29年3月4日（土）14:00～15:00

【講 師】弘中智子氏（板橋区立美術館学芸員）

【会 場】講堂 【参加者】43人

第2部《シンポジウム》「山元恵一と沖縄をめぐる現実と幻想」

【日 時】平成29年3月4日（土）15:00～17:00

【講 師】喜久村徳男氏（画家）、与久田健一氏（画家）、川平恵造氏（画家）、

前田比呂也（当美術館副館長）、コーディネーター豊見山愛（当館担当学芸員）

【会 場】講堂 【参加者】43人

□「ラ・ムジカ ～山元ほるんピアノ演奏会～」

【日 時】平成29年3月3日（金）18:30～

【講 師】山元ほるん氏（ピアノ）、風間龍氏（身体表現）

【会 場】講堂 【参加者】120人

□山元恵一展開会式内覧会

【日 時】平成29年3月3日（金）10:30～11:30

【講 師】豊見山愛（当館担当学芸員）

【会 場】美術館企画展示室 【参加者】62人

□キュレータートーク

【日 時】平成29年3月18日（土）14:00～15:00

【講 師】豊見山愛（当館担当学芸員）

【会 場】美術館企画展示室 【参加者】 人

□まーちゃんのゆんたくひんたくミュージアム

【日 時】平成29年3月25日（土）10:30～12:00

【講 師】まーちゃん（小波津正光）

【会 場】美術館企画展示室、エントランス 【参加者】 48人



魅力アップ事業・その他

その他教育普及に関する取り組み

1. 魅力アップ事業

著名人招聘①

【催事名】「OKINAWA STREET ART EXHIBITION-BACK to BACK-」

【講師】花城武史

【内容①】ライブペイント:木製壁面へのライブペイント（公開制作）を2日間に渡って行う。

【場所】当館3階ミュージアムカフェ「茶花」屋外

【内容②】作品展示とトークイベント:当館前田副館長と
グラフィティライターとの対談

【場所】当館エントランス

【参加者】234名



著名人招聘②

【催事名】「まーちゃんのゆんたくひんたくミュージアム」

【講師】まーちゃん（小波津正光氏）

【内容①】山元恵一展作品を参加者と一緒にゆんたくしながら作品鑑賞をする。

【内容②】山元恵一が描いた牛骨をモチーフにした「牛骨シール」の吹き出しに、参加者が思い思いのこぼれ書きを入れ、その言葉に対しまーちゃんがコメントする。

【場所】美術館企画展示室、エントランス

【参加者】48名



2. 2016年度ワークショップ修了作品展

今年度、美術館のワークショップで作られて作品を集め、修了作品展を開催した。

移動展で染め上げて布の作品をメインに、キッズクラブの錫細工、パステルや色鉛筆で描いた幻想的な絵画、アダンの筆で書いた書初めなど、力作が並んだ。

会期中は家族連れで賑わった。

【場所】県民ギャラリー3

【来場者】122名



平成28年度美術館事業統計報告

教育普及事業

1. シンポジウム・講演会・上映会・演奏会

回	月日	曜	シンポジウム・講演会	見学者
1	4月12日	火	「志村ふくみー母衣への回帰」関連講演会 講師：松原龍一（京都近代美術館）	101
2	4月30日	土	「宮良瑛子展ーいのち」関連シンポジウム 講師：宮良瑛子（画家）岡村幸宜（原爆の凶丸木美術館学芸員） 上原誠勇（画廊沖繩主宰）山川さやか（画家） コーディネーター：豊見山愛（当館学芸員）	79
3	5月8日	日	「志村ふくみー母衣への回帰」関連催事 「工芸技術記録映画ー志村ふくみのわざ」	151
4	11月5日	土	「真喜志勉展 アンビバレント」関連シンポジウム 講師：仲里効（映像批評家）土屋誠一（沖縄県立芸術大学） 前田比呂也（当館副館長） コーディネーター：島筒格（当館学芸員）	72
5	1月15日	日	「夢の美術館」関連講演会 「福岡市美術館 収集活動の変遷」 講師：山口洋三（福岡市美術館） 関連シンポジウム 「美術館と作品収集」 講師：重松知美（北九州市立美術館）山口洋三（福岡市美術館） 前田比呂也（当館副館長） コーディネーター：仲里安広（当館学芸員）	40
6	3月3日	金	「山元恵一展 まなごしのシュルレアリスム」関連演奏会 「ラ・ムジカ」 ピアノ：山元ほるん身体ひ表現：風間龍	120
7	3月4日	土	「山元恵一展 まなごしのシュルレアリスム」関連講演会 「山元恵一の東京時代」 講師：弘中智子（板橋区立美術館） 関連シンポジウム 「山元恵一と沖縄をめぐる現実と幻想」 講師：喜久村徳男（画家）与久田健一（画家）川平恵造（画家） 前田比呂也（当館副館長） コーディネーター：豊見山愛（当館学芸員）	43

2. キュレーター・トーク（展示会担当学芸員による作品・作家解説）

回	月日	曜	展示会名	担当	参加者
1	5月14日	水	「志村ふくみー母衣への回帰」展関連	大城さゆり	30
2	5月28日	水	「宮良瑛子展ーいのち」関連	豊見山愛	22
3	7月2日	水	「沖縄美術の流れ」関連 ※10:30～12:00で開催	仲里安広	12
4	12月3日	水	「真喜志勉展ーアンビバレントー」関連	島筒格	16
5	1月21日	水	「夢の美術館～めぐりあう名画たち～」関連	仲里安広	49
6	3月18日	水	「山元恵一展 Le fragment du reve」関連	豊見山愛	12

3. アーティスト（ギャラリー）・トーク（展示作品制作者又は関係者による作品解説 14:00～15:30）

回	月日	曜	シンポジウム・講演会	講師	参加者
1	4月26日	火	「宮良瑛子展－いのち」関連 ※10:30～開催	宮良瑛子	20
2	5月8日	土	志村ふくみ－母衣への回帰－展関連 ※15:00～から開催	松原龍一 (京都近代美術館)	60
3	5月29日	日	「志村ふくみ－母衣への回帰－」展関連 ※15:00～から開催	外山もえこ (アルスシムラ)	45
4	8月7日	土	「宮良瑛子展－いのち」関連 「画像聴覚化装置って何？視覚障がい者を中心とした 聴覚・触覚で鑑賞する宮良瑛子絵画の魅力」	黒田昌弘 (画像聴覚化研究所)	23
5	10月2日	日	「宮良瑛子展－いのち」関連	宮良瑛子館	21
6	11月1日	金	「真喜志勉展関連」①	能勢孝二郎 前田比呂也	70
7	11月20日	土	「真喜志勉展関連」② 「TOM MAX と仲宗根政善」	長元 朝浩 (沖縄タイムス論説員) 仲里効 (批評家)	58
8	12月18日	土	「真喜志勉展関連」③ 「TOM MAX とアメリカ」	宮城明 (画家) 翁長直樹 (美術批評家)	30
9	1月22日	土	「真喜志勉展関連」④ 「TOM MAX とぺんとはうす」	古謝肇、上原則雄平 良和宏、井口春治 (ぺんとはうす) 仲里効 (批評家)	41
10	1月29日	土	「夢の美術館～めぐりあう名画たち～」関連 『シュルレアリスムの画家たち』	与久田健一 (画家)	32
11	2月19日	土	「真喜志勉展関連」⑤ 「TOM MAX と写真家たち」	大城弘明 (写真家) 仲里効 (批評家)	25
12	3月12日	土	「真喜志勉展関連」⑥ 「TOM MAX と詩人たち」	中里友豪 (詩人) 仲里効 (批評家)	36
13	3月19日	土	「真喜志勉展関連」⑦ 「TOM MAX と OKINAWA」	仲里効 (批評家) 翁長直樹 (美術批評家) 前田比呂也	36

4. ボランティア養成講座（コレクション展に関する内容と鑑賞法の講義 10:00～）

対象：登録ボランティア員

回	月日	曜	講義内容	参加
1	4月27日	水	新規鑑賞ボランティア体験会	14
2	5月11日	水	活動計画と事務手続き等説明会	13
3	5月25日	水	対話による鑑賞の解説、鑑賞体験	15
4	6月8日	水	対話による鑑賞ワークショップ①	14
5	6月22日	水	対話による鑑賞ワークショップ②	15
6	7月6日	水	アートカード体験	19
7	7月20日	水	新規鑑賞ボランティア修了証授与式	17
8	7月27日	水	対話による鑑賞実践体験①	13
9	8月24日	水	対話による鑑賞実践体験②	11

5. 美術館講座

- (1) 「印象派から現代までの絵画の軌跡」52人参加
 ①日 時：平成29年1月8日（日）14:00～15:30
 ②内 容：印象派から現代までの美術の流れの解説
 ③講 師：土屋誠一（美術評論家/沖縄県立芸術大学准教授）
 ④場 所：美術館講座室

6. 学芸員講座

- (1) 「美術館に作品が展示されるまでー作品収集の視点からー」9人参加
 ①日 時：平成28年4月23日（土）14:00～15:30
 ②内 容：当館の作品収集についての概要解説とバックヤード案内
 ③講 師：島筒格（当館資料収集担当）
 ④場 所：美術館講座室、バックヤード
- (2) 「修復コロシウムー保存の現場からー」16人参加
 ①日 時：平成28年6月11日（土）14:00～15:30
 ②内 容：当館における保存・修復の現状の解説
 ③講 師：梶原正史（当館保存修復担当）
 ④場 所：美術館講座室
- (3) 「アジアコレクションの魅力」24人参加
 ①日 時：平成28年9月17日（土）14:00～15:30
 ②内 容：当館が収集したアジアコレクションの紹介とその時代状況の解説
 ③講 師：前田比呂也（当館美術館副館長）
 ④場 所：美術館講座室
- (4) 「金城安太郎が描いた《今帰仁城盛衰記》」31人参加
 ①日 時：平成28年10月22日（土）14:00～15:30
 ②内 容：金城安太郎がTV番組「今帰仁城盛衰記」のために描いた原画の解説
 ③講 師：玉那覇英人（当館保存管理、次期「金城安太郎展」担当）
 ④場 所：美術館講座室
- (5) 「教育普及の仕事ーあなたの知らない教育普及プログラムー」7人参加
 ①日 時：平成28年11月26日（土）14:00～15:30
 ②内 容：当館教育普及プログラムの紹介とアートカード体験
 ③講 師：仲村保（当館教育普及担当）
 ④場 所：美術館講座室
- (6) 「沖縄美術の変遷ー明治から70年代までー沖縄の美術家は何を捉えてきたか」・25人参加
 ①日 時：平成29年1月28日（土）14:00～15:30
 ②内 容：明治期から1972年までの沖縄美術の変遷の解説
 ③講 師：仲里安広（当館展示公開担当）
 ④場 所：美術館講座室

7. 読み聞かせー宮良瑛子展関連

読み聞かせ①

- ①日 時：平成28年6月18日（土）10:00～12:00
 ②内 容：「湖南丸と沖縄の少年たち」
 ③講 師：佐渡山・金児（銘苺小学校PTCA）
 ④参加者：29名

読み聞かせ②※慰霊の日特別プログラム 博物館との共同プログラム

- ①日 時：平成28年6月23日（木）14:00～16:30
 ②内 容：「忘れな石」※読み聞かせの後、博物館で沖縄戦の展示解説会
 ③講 師：崎山律子（フリーアナウンサー）、石垣忍（博物館学芸員）
 ④参加者：29名

読み聞かせ③

- ①日 時：平成28年8月13日（土）14:00～15:30
- ②内 容：「忘れな石」
- ③講 師：山川喜美子（菜の花文庫主宰）
- ④参加者：30名

8. ワークショップ

- (1) 美術館夏休み子供ワークショップ①「中庭が水族館」……………36組40人参加
 - ①日 時：平成28年8月13日（土）第1回 9:30～10:00 第2回 10:30～11:00
 - ②内 容：中庭の窓ガラスに好きな魚などを彩色して水族館にする
 - ③講 師：仲村保（当館学芸員）
 - ④対 象：小学生以下（親子同伴）
 - ⑤会 場：美術館中庭
- (2) 美術館夏休み子供ワークショップ②「写生大会」……………20人参加
 - ①日 時：平成28年8月13日（土）9:00～12:00
 - ②内 容：屋外展示場や周辺の公園の風景を講師の指導のもと水彩画を描く
 - ③講 師：屋良朝彦氏、大城謙氏、當間よしの氏、崎枝静子氏（沖縄県美術家連盟）
 - ④対 象：小学1年～中学3年
 - ⑤会 場：博物館・美術館周辺
- (3) 美術館夏休み子供ワークショップ③「版画体験」……………親子13組参加
 - ①日 時：平成28年8月13日（土）14:00～16:00
 - ②内 容：木版画の手法をとおして色を重ねるとどんな色が生まれるかを体験
 - ③講 師：河辺志保氏（琉球大学付属小学校）、琉球大学教育学部の大学生のみなさん
 - ④対 象：未就学児～小学校2年
 - ⑤会 場：県民・こどもアトリエ
- (4) 美術館夏休み子供ワークショップ④「似顔絵教室」……………25人参加
 - ①日 時：平成28年8月13日（土）13:00～16:00
 - ②内 容：参加者が互いに似顔絵を描き、相手の特徴を見つけて描く方法を学ぶ
 - ③講 師：又吉浩氏（沖縄県立芸術大学）、沖縄県立芸術大学大学生のみなさん
 - ④対 象：幼稚園児～高校生
 - ⑤会 場：講堂前ホワイエ、博物館講座室前
- (5) 美術館夏休み子供ワークショップ⑤「中庭は動物園」……………36組46人参加
 - ①日 時：平成28年8月14日（日）1回目9:30～10:00 2回目10:30～11:00
 - ②内 容：絵の具を使って中庭の窓ガラスに好きな動物を描き動物園にする
 - ③講 師：仲本賢氏（沖縄県立芸術大学）、沖縄県立芸術大学大学生のみなさん
 - ④対 象：幼稚園児～大人
 - ⑤会 場：美術館中庭
- (6) 美術館夏休み子供ワークショップ⑥「キッズカメラマン」……………5組参加
 - ①日 時：平成28年8月14日（日）13:00～16:00
 - ②内 容：子どもがカメラマンとなり、指導を受けながら家族写真を撮影する
 - ③講 師：高野大氏、沖縄県立芸術大学大学生のみなさん
 - ④対 象：小学校1年～高校3年
 - ⑥会 場：県民・こどもアトリエ
- (7) 美術館夏休み子供ワークショップ⑦「美術館にねんどのキノコを植えよう」・33人参加
 - ①日 時：平成28年8月14日（日）13:00～16:00
 - ②内 容：紙粘土で色とりどりのキノコをつくり、館入口や屋外展示上の芝生の上に置く
 - ③講 師：仲本賢氏（沖縄県立芸術大学）、沖縄県立芸術大学大学生のみなさん
 - ④対 象：小学校1年～高校3年
 - ⑤会 場：県民・こどもアトリエ
- (8) 真喜志勉展関連ワークショップ①「墨絵で描く秋」……………11人参加
 - ①日 時：平成28年11月5日（土）10:00～12:00
 - ②内 容：真喜志勉の世界をイメージさせる墨に少し色味を加えた秋を感じる絵を描く
 - ③講 師：仲本京子（画家）
 - ⑦場 所：県民・こどもアトリエ
- (9) 夢の美術館展関連ワークショップ「色の中で遊ぶ」……………12人参加

- ② 内 容：山や海をイメージし自由に想像した絵を描く
- ③ 講 師：上原成美（画家）
- ⑧ 場 所：県民・こどもアトリエ

(10) 真喜志勉展関連ワークショップ②「Dog Tag を作ろう」……………12人参加

- ① 日 時：平成29年2月11日（土）10:00～12:00
- ② 内 容：真鍮、銅の2つのドッグタグにデザインを施しオリジナル作品制作
- ③ 講 師：喜舎場智子・平澤尚子
- ⑨ 場 所：県民・こどもアトリエ

9. 鑑賞学習支援事業「美術館へ行こう」

(1) 児童生徒をバスで送迎し、コレクション展示作品を使って鑑賞学習指導を行う……617人参加

- ① 対 象：本島域内小中学校、特別支援学校等
- ② 方 法：公募により学校を決定
- ③ 場 所：コレクション展示室
- ④ 内 容：鑑賞ボランティアによる鑑賞学習支援

回	月 日	曜	学校名	見学者
1	9月28日	水	豊見城市立上田小学校（5年）	104
2	10月5日	水	うるま市立中原小学校（6年）	120
3	10月14日	金	名護市東江小学校（6年）	87
4	11月8日	火	宜野湾市立普天間中学校 特別支援学級	21
5	11月22日	火	読谷村立古堅南小学校（5年）	99
6	11月25日	金	うるま市立平敷屋小学校（3年）	42
7	11月30日	水	糸満市立兼城小学校（6年）	107
8	12月9日	金	美咲特別支援学校はなさき分校（中・高）	84

10. 図工・美術担当教職員等講座①……………10人参加

- ① 日 時：平成28年5月21日（土）14:00～16:00
- ② 内 容：アートカード活用例と対話による鑑賞の体験
- ③ 講 師：仲村保（当館教育普及担当）
- ② 会 場：県民アトリエ・こどもアトリエ、コレクションギャラリー

図工・美術担当教職員等講座②……………36人参加

- ① 日 時：平成28年8月12日（金）9:30～16:10
- ② 内 容：講師による授業実践報告とアートカード活用例と対話による鑑賞の体験
- ② 講 師：安里愛、峯村和美（名護市立東江小学校）
岸本綾乃（名護市立名護小学校）
前田比呂也（当美術館副館長）仲村保（当館教育普及担当）
- ③ 会 場：美術館講座室、コレクションギャラリー

11. 美術館ミュージアムツアー

(1) 内 容：普段観ることのできない美術館の裏側とコレクションギャラリーを教育普及担当学芸員が案内する

- (2) 定 員：12名
- (3) 時 間：10:30～12:00

回	月 日	参加人数
1	5月14日	5
2	5月21日	8
3	8月27日	11
4	11月26日	1
5	1月28日	8

12. 「移動展in座間味」508人入場

- (1) 会 期：平成28年12月16日（金）・17日（土）・18日（日）（3日間）
- (2) 開催地：座間味村
- (3) 内 容：映像作品の展示、小・中学校への出前授業、ワークショップの実施
 ワークショップ①「身近ものを錫にしておもう」講師：上原展俊 参加 18名
 ワークショップ②「けらまいろ染料で描く海と空」講師：児玉美咲 参加 78名

13. 研修対応

(1) 学芸員実習

- ① 期 間：平成28年8月15日（月）～8月26日（金）10日間（土、日を除く）
- ② 参加者：9名（沖縄県立芸術大学8名、九州産業大学1名）
- ③ 内 容：保存保管環境、展示方法、絵画、彫刻、写真等作品の取り扱いに関する美術館学芸員業務全般

(2) 校内研修①

- ①期 間：平成28年8月2日（火）
- ②参加者：那覇市立銘苺小学校
- ③内 容：前田副館長の講話とコレクションギャラリーでのワークショップ

校内研修②

- ①期 間：平成28年8月23日（火）
- ②参加者：東村立高江小中学校
- ③内 容：前田副館長の講話とコレクションギャラリーでのワークショップ

(3) 那覇教育事務所教職10年経験者研修

- ①期 間：平成28年7月29日（金）
- ②参加者：那覇地区小・中学校教員
- ③内 容：当美術館の学校団体受入解説とコレクション展鑑賞

(4) 社会教育主事現地研修

- ①期 間：平成29年2月17日（金）
- ②参加者：社会教育主事講習者
- ③内 容：バックヤードとコレクション展鑑賞

14. 学校団体見学対応357人参加

回	月 日	曜	学校名	見学者
1	6月15日	水	座間味村立阿嘉小学校（4～6年）	7
2	7月8日	金	沖縄県立浦添工業高校デザイン科（1年）	80
3	11月8日	火	西原町立西原東小学校（4年）	70
4	11月11日	金	沖縄市立室川小学校（5年）	50
5	11月16日	木	尚学院S I B A	5
6	2月8日	木	北谷町立北谷小学校（3年）	67
7	2月17日	金	沖縄県立浦添工業高校デザイン科（2年）	78

15. 社会教育団体見学対応357人参加

回	月 日	曜	学校名	見学者
1	7月23日	土	銘苺小学校P T C A	21
2	8月9日	火	県女性経営者協会	41
3	12月4日	日	那覇市牧志駅前ほしぞら公民館	16

16. 出前授業

回	月日	学校名	回	月日	学校名
1	9月20日	豊見城市立上田小学校5年	8	12月7日	県立美咲特別支援はなさき分校
2	9月27日	うるま市立中原小学校6年	9	12月13日	座間味村立阿嘉小学校
3	10月11日	名護市立東江小学校6年	10	12月13日	座間味村立阿嘉中学校
4	10月28日	宜野湾市立普天間中学校特別支援学級	11	12月15日	座間味村立座間味小学校
5	11月9日	沖縄市立室川小学校5年	12	1月20日	北谷村立北谷小学校3年
6	11月17日	うるま市立平敷屋小学校3年	13	1月30日	北中城村立島袋小学校4年
7	11月24日	糸満市立兼城小学校6年	14	2月2日	北中城村立島袋小学校3年

17. アートミュージアムキッズクラブ

回	月日	曜	展示会名	担当	参加者
1	5月15日	日	キッズクラブ活動説明+バックヤードツアー	仲村保	8
2	5月28日	土	キッズクラブマイTシャツ作り	真喜志康一 (デザイナー)	9
3	6月18日	土	宮良瑛子展関連 読み聞かせ+作品鑑賞	佐渡山・金児 (銘苺小PTCA)	7
4	8月14日	日	ワークショップ「世界に1つだけの作品を作ろう」	吉田俊景 (彫刻家)	3
5	10月15日	土	対話による鑑賞+アートカード	仲村保	6
6	11月19日	土	ワークショップ「錫細工を作ろう」	上原俊展 (金細工師)	13
7	12月11日	日	中庭の窓にクリスマスの絵を描こう	仲村保	10
8	1月22日	日	ワークショップ「修了書を作ろう」	県芸大生3名	8
9	1月29日	日	ワークショップ「似顔絵を描こう」+修了式	仲村保	12

[さ い ご に]

教育普及活動は、美術館という場を通して、人と人、人と作品、人と他の何かが結び付く機会をつくっていく活動です。その中で、新しい刺激に触発され、自分自身を見つめたり、語ったり、見直したりすることで、新しい自分を発見する一助となり得たなら幸いです。

今年度も、シンポジウムや講演会、トークイベント、ワークショップ等に関わっていただいたアーティストの方々、展覧会関係者、そして美術館を支えているボランティアの皆さま方、たくさんの方々のお力添えのおかげで、このような報告書をまとめることができました。この場を借りて感謝を申し上げます。

平成 28 年度
沖縄県立博物館・美術館
美術館教育普及報告書

2017 年 3 月 31 日

発行
沖縄県立博物館・美術館
沖縄県那覇市おもろまち 3-1-1
TEL.098-941-8200 (代表)

教育普及担当
仲村 保 (沖縄県立博物館・美術館)
保久村智恵 (沖縄美ら島財団)
中島アリサ (沖縄美ら島財団)